

令和2年度 吉川市立南中学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	A	学校分離により教職員の人数が大幅に減少したが、校内の組織を整理し、全職員で協力して様々な教育活動にあたっている。	A	生徒が自ら考え、判断し行動できるように、すべての教育活動において「生きる力」を育む取り組みを行っている。生徒一人ひとりの良さを引き出せるような教育活動を展開していく。
2	学校は、児童生徒の学習環境の整備に努めている。	A	本校の伝統である清掃に力を入れて取り組んでおり、学習に集中できる環境が保たれている。また、ICT機器等の積極的な活用に努めている。	A	経年劣化がみられる施設であるが、生徒が安全に生活できるよう計画的に整備を進めている。
3	校長を中心として、全職員が協力して児童生徒のために努力している。	A	各職員が校務分掌のそれぞれの役割に責任をもってあっている。更に生徒のためになるように、分掌や学年を越えた連携を密にしていこうと努めている。	A	今後も校長を中心に全職員が丸となって、安心・安全で落ち着いて学習に取り組める学校を目指し、教育活動を推進していく。
4	学校は、保護者や地域に学校行事や授業を公開している。	B	今年度は感染症対策により学校行事の実施が難しく、保護者や地域の方に学校の様子を公開する機会が限定的になってしまった。	A	感染症対策のため学校行事が限られてしまう状況の中、少しでも保護者や地域の方に学校の様子を公開できる方法を模索しながら学校教育を推進した。
5	学校は、学校の様子や成果を「学校だより・学年だより」等を活用し、情報提供している。	A	定期的に行われる「学校だより」やHPの更新を通して本校の様子や良さを発信している。	A	学校だよりやHPによる情報発信を行い、開かれた学校づくりに努めている。
6	学校は、保護者や地域からの相談や要望に応えている。	A	教職員は情報の共有を密に行い、管理職の指導の下、学校運営の改善につながるよう組織として連携している。また、保護者や地域からの情報提供に丁寧に対応している。	A	家庭・地域からの要望に対して、真摯に受け止め改善に努めてきたが、今後も全職員で積極的な生徒指導、生徒理解に努めていく。
7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	A	ノーチャイムでの生活の中、生徒は時間を意識して行動している。授業規律が成り立ち、落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいる。	A	感染症対策により、学習形態に制限がかかる中、どの学年・学級においても落ち着いて学習に取り組むことができている。
8	学校は、教材や指導方法を工夫し、児童生徒にわかりやすい授業を心がけている。	A	感染症対策やICT設備等、学習環境が大きく変化している中、わかる授業を心掛け、指導の工夫に努めている。	A	ICT設備等の充実により、指導の幅が広がっている。より分かりやすい授業を目指して工夫に努めている。
9	学校は、児童生徒の行動や能力を適切に評価している。	A	各教科で評価の観点を確認するとともに、教科部会で評価についての検討や確認を行った。自己評価や相互評価などを取り入れ、多面的に生徒の活動を評価している。	A	生徒の良さを褒めて育て、自己有用感の育成に努めている。また、各教科の評価基準を明確にし、理解を得るように努めている。
10	児童生徒は、進んであいさつをしたり正しい言葉づかいをしたりすることができる。	B	生徒会が作成している「人を温める言葉」と「人を傷つける言葉」の掲示物を掲示するなど、生徒が自発的に言葉遣いに留意できるような取り組みを行っている。	B	校内でのあいさつはよくできているが、親しい間柄ほどあいさつや言葉遣いが雑になる傾向がみられる。その場に応じたあいさつや言葉遣いができるように指導していく。
11	児童生徒は、学習のルールや生活の決まりを守ることができる。	A	生活や学習のルールや約束事について、年度当初に全体で確認する機会を設けている。また、教職員、生徒、保護者の共通理解を図るため、「南中ナビ」を作成し、次年度より活用していく。	A	生活・学習のルールがよく守られており、落ち着いた学校生活を送っている。自転車の乗り方など、学校外でのルールの順守ができるように継続して指導していく。
12	児童生徒は、時間を守ることができる。	A	本校ではノーチャイムを実践しており、生徒は常に時間を意識して行動している。移動教室の際などの教室外においても時計を見て行動することを意識させている。	A	ほとんどの生徒が時間を意識して行動できている。ノーチャイムの特性を生かし、今後も時間の管理の自己管理を促していく。
13	学校は、規範意識を高めるための指導に取り組んでいる。	A	生徒指導委員会を行い、生徒の状況や動向についての共通理解を図っている。また、学級委員会の取り組みを通して生徒自身から規範意識を高める活動を行っている。	A	学級指導や部活動等を通して、集団の一員としての自覚を持ち、規範意識を高めるための指導を行っている。
14	児童生徒は、体育の授業や部活動又は外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	感染症対策により制限がかかる中、体育の授業や部活動に積極的に取り組んでおり、体力の向上につながっている。	A	部活動の制限がかかる状況の中、体育の授業等を通して積極的に体力の向上に努めている。
15	児童生徒が、健康な生活を送れるよう食育に取り組んでいる。	B	感染症対策のため、前向き給食が慣行されており、残食の量が減っている。	A	給食指導を通して食事のマナーについて指導している。また、感染症対策のため前向き給食を敢行したことにより残食の量が減少している。
16	学校は、児童生徒の健康・安全や体力向上に向けた取り組みを行っている。	A	感染症対策のため、朝の健康チェックや換気、手洗いうがいの取り組みを行い、生徒の健康管理に配慮した。	A	自転車の乗り方など、学校内外での自他の安全に対する意識を高める取り組みを実践していく。
17	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にしている。	A	学校生活がどの生徒にとっても安心・安全なものできるように、教職員間での情報共有や報告・連絡・相談を密に行っている。また、家庭との連携も大切にしている。	B	教職員と生徒の関係づくりのために、生徒と向き合う時間の確保に努めている。さわやか相談員や養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を継続していく。
18	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	A	いじめや不登校の解消を目指し、定期的にアンケートを実施して実態把握に努めている。また、教育相談委員会を実施し、細かな情報の共有に努め、生徒の内面の指導に力を入れている。	A	定期的なアンケートや面談を実施し、いじめの早期発見・対応に努めている。不登校対策として教育相談委員会が個に応じた対応を検討し、小中学校や関係機関との連携も深めていく。